

安全保障環境の認識

グローバル

インド太平洋

パワーバランス変化
力による現状変更の顕在化
経済安全保障
国際社会のガバナンス低下

パワーの重心がインド太平洋に移行→国際秩序に挑戦する動きの加速
他国の領域主権等への力による一方的な現状変更（ロシアのウクライナ侵攻）
他国に経済的な威圧を加える動き・サプライチェーンの脆弱性
共通の課題対応で国際社会が団結しづらい状況

国際秩序は重大な挑戦に晒される
相互依存のみで平和と発展保証されない
対立と協力の様相が複雑に絡み合う国際社会
日本は戦後最も厳しく複雑な安全保障環境

中国（深刻な懸念事項・最大の戦略的挑戦） 軍事力増強、現状変更の試み強化、ロシアとの戦略的連携、不透明な開発金融・経済的威圧
北朝鮮（従前よりも一層差し迫った脅威） ミサイル関連技術及び運用能力の急速な進展、核戦力強化、拉致問題
ロシア（欧：最も重大かつ直接の脅威／ア：安全保障上の強い懸念） ウクライナ侵略、北方領土での軍備増強及び活動、中国との戦略的連携

日本の国益・基本原則・安全保障上の目標

日本の国益

1. 主権と独立の維持、領域保全／国民の安全確保
2. 経済成長を通じた繁栄／共存共栄できる国際環境
3. 普遍的価値や国際法に基づく国際秩序
インド太平洋地域で自由で開かれた国際秩序

日本の国家安全保障に関する基本的原則

1. 積極的平和主義／日本を守る第一義的責任
2. 普遍的価値を維持・擁護する安保政策
3. 専守防衛・非核三原則等の基本方針
4. 日米同盟は安全保障政策の基軸
5. 同志国との連携・多国間協力重視

日本の国家安全保障上の目標

1. 国内・外交政策の自主的決定を維持
有事発生を抑止・脅威の排除と被害最小化
2. 経済成長可能な国際環境を安保政策で確保
3. 国際関係における新たな均衡をイ太地域に実現
4. 国際社会が共存共栄できる環境を実現

日本が優先する戦略的アプローチ

総合的な国力（外交力、防衛力、経済力、技術力、情報力）の動員

1. 外交（危機予防・平和創出・秩序強化）

- ① 日米同盟強化
- ② 自由で開かれた国際秩序の維持・発展
- ③ 周辺国との外交／領土問題等懸案解決
- ④ 軍備管理・軍縮・不拡散
- ⑤ 国際テロ対策 ⑥ 気候変動対策
- ⑦ ODA等戦略的活用 ⑧ 人的交流促進

2. 日本の防衛体制強化

- ① 防衛力の抜本的強化
領域横断作戦能力
スタンド・オフ作戦能力
反撃能力
- ② 総合的な防衛体制の強化
- ③ 防衛装備移転
- ④ 防衛精算・技術基盤強化

3. 日米同盟

核を含む拡大抑止の提供
抑止力と対処力の強化

4. シームレスな取り組み

- ① サイバー安全保障 ② 海洋安保・保安協力
- ③ 宇宙安全保障 ④ 技術力 ⑤ 情報能力
- ⑥ 公共インフラ整備 ⑦ 国民保護体制
- ⑧ 邦人保護 ⑨ エネルギー安全保障

5. 経済安全保障政策

自律性・優位性・不可欠性確保
セキュリティ・クリアランス

6. 国際経済秩序の維持・強化

経済的威圧への対抗／CPTPP等

7. グローバルな取り組み

国際機関／感染症／人道支援／平和協力

戦略環境の変化

戦略環境の外観

1. 普遍的価値共有しない国家の勢力拡大
2. ロシアのウクライナ侵略→新たな危機の時代へ
3. パワーバランス変化はイ・太地域において顕著
4. 米中の競争激化 (今後10年が決定的)
5. 科学技術の進展→安全保障の在り方を根本変化
6. サイバー領域・情報戦・気候変動

日本周辺の軍事動向

- 中国** 国防費拡大・能力強化・軍事活動活発化
深刻な懸念事項+最大の戦略的な挑戦
- 北朝鮮** WMD・ミサイル増強の集中的な取り組み
従前よりも一層重大かつ差し迫った脅威
- ロシア** 北方領土周辺で軍事活動活発化・中露連携
防衛上の強い懸念

新しい戦い方の顕在化

- ・精密打撃能力による大規模なミサイル攻撃
- ・情報戦を含むハイブリッド戦
- ・宇宙・サイバー・電磁波領域や無人アセット等の非対称な攻撃
- ・核兵器による威嚇も生起

脅威 (意思・能力) → 意思を正確に把握することは困難
相手の能力に注目した防衛力を構築する必要

日本防衛の基本方針

3つの防衛目標

1. 力による一方的な現状変更を許容しない安全保障環境を創出
2. 同盟国・同志国等と協力・連携して抑止・対処し、早期に事態を収集
3. 日本への侵攻が生起する場合、日本が主たる責任をもって対処し、同盟国等の支援を受けつつ、これを阻止・排除

核兵器の脅威に対しては、核抑止力を中心とする米国の拡大抑止が不可欠

3つのアプローチ

1. 日本自身の防衛体制の強化
中核たる日本の防衛力を抜本的に強化
国全体の防衛体制の強化
2. 日米同盟の抑止力・対処力強化
3. 同志国等との連携の強化

今後の防衛力は、相手の能力と戦い方に注目して、我が国を防衛する能力を抜本的に強化。
新たな戦い方への対応
一方的な現状変更を決して許さない意思の明確化

防衛目標を実現するためのアプローチ

1. 日本自身の防衛体制の抜本的強化

- ・ 日本への侵攻を日本が主たる責任をもって阻止・排除
- ・ 相手に軍事的手段で侵攻によって生じるコストに見合わない
と認識させる能力 (= 拒否的抑止力)
- ・ インド太平洋における抑止力、力の変更を許容しない安全保障環境を創出

日本への侵攻を阻止するために、遠距離から侵攻能力を阻止・排除

スタンド・オフ防衛能力 統合防空ミサイル防衛能力 反撃能力の導入

抑止が破られた場合、領域横断で優越を獲得し、非対称的な優勢を確保

無人アセット防衛能力 領域横断作戦能力 指揮統制・情報関連機能

迅速かつ粘り強く活動し続けて、相手の侵攻意図を断念させる

機動展開能力・国民保護 持続性・強靱性

基本的考え方

新しい戦い方

2022 今後5年間の最優先課題

現有装備品の活用
可動率向上・燃料確保、防衛施設強靱化
将来の中核分野の技術的強化
スタンド・オフ防衛・無人アセット防衛
極超音速兵器対処・UAV活用/対処
宇宙領域把握・サイバーセキュリティ・電磁波等

日本侵攻の際に日本が主たる責任をもって対処
2027 同盟国等の支援でこれを阻止・排除し得る防衛力

より先進的なスタンド・オフ・ミサイル
広域防空能力・無人アセットの複数同時制御
宇宙作戦能力・無人機と連携する陸海空能力
AI活用による情報収集・分析能力強化
革新的な装備品を実現しうる強力な防衛生産基盤

2032 早期・遠方で侵攻を阻止・排除し得る防衛力

2. 日米同盟による共同抑止・対処

- ・ 米国との同盟関係は日本の安全保障の基軸
- ・ 日米共同の意思と能力を顕示し、力による一方的な現状変更を阻止
- ・ 日本への侵攻が生起した場合には、日米共同対処により侵攻阻止
役割・任務・能力の議論を深め抑止力を一層強化
同盟調整機能 (ACM等) の強化
共同対処基盤 (情報基盤、サイバー、装備・技術協力) の強化
在日米軍再編等

3. 同志国等との連携

- ・ 豪州：「特別な戦略パートナー」米国に次ぐ緊密な防衛協力関係
- ・ 印：海洋安全保障等幅広い分野で軍種間交流を深化
- ・ 英・仏・独・伊等：グローバルな課題、インド太平洋での協力
- ・ NATO・EU：国際的なルール形成やインド太平洋での協力
- ・ 韓国：北朝鮮を念頭に日米韓の連携を強化
- ・ ASEAN：各国の状況に合わせた協力、共同訓練、装備移転